2024 年　フォーラム・ポーランド会議

ポーランドの地域的多様性、あるいは他者との共生

日時：　2024 年 12 月 7 日（土）　　10:30-16:00
場所：　駐日ポーランド共和国大使館　タデウシュ・ロメル　ホール
主催：　フォーラム・ポーランド
協賛：　駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター

プログラム

10:00　受付開始
司会：平岩理恵（フォーラム・ポーランド事務局長、ポーランド広報文化センター）

10:30～10:35 開会の辞：田口雅弘・フォーラム・ポーランド代表（環太平洋大学教授、岡山大学名誉教授）

10:35～10:45 歓迎の挨拶：パヴェウ・ミレフスキ・駐日ポーランド共和国特命全権大使

10:45～10:55 沼野充義教授へのポーランド文化功労章グロリア・アルティス授与式

10:55～11:05 記念撮影

午前の部 11:05～12:30

11:05~11:50 プログラム全体の紹介

白木太一・フォーラム・ポーランド副代表（大正大学教授）「ヴァルミア司教区とポーランド―コペルニクとクラシツキの時代を中心に―」

<白木太一>　本報告では、ヴァルミア地域の独自性について通史的に考察した。まず、中世ヴァルミア司教領の形成過程と住民構成を略述した。続いて、周辺諸国家や領域内諸勢力の関係の中で、近世ヴァルミアの地域の独自性がどのように発展したのかを、16 世紀の聖堂参事会員コペルニクと 18 世紀の司教クラシツキを中心に考察した。最後に、近現代ヴァルミアが、上記の独自性をどのように継承したかの見取り図を示した。

11:50~12:30 細田信輔（龍谷大学名誉教授）「カシューブ人の歴史と知識人－フローリアン・ツェイノヴァの思想と行動（1817-1881）」

＜細田信輔＞　カシューブ人とはポーランドのポモージェ地方に定住するエスニック・マイノリティである。その言語は西スラヴ語に属し、これまで独自の言語文化と慣習を維持してきた。近年ではカシューブ語は「地域語」として認定され、公教育にでも教科として採用されている。しかし、現在までの地位と権利を獲得するまでのカシューブ人の歴史は多難に満ちていた。すなわち、ドイツ・ポーランド両民族のはざまに置かれて、双方からの差別や同化政策にさらされてきたのである。本報告では、カシューブ人の自立を目指して闘った最初の知識人であるＦ．ツェイノヴァに焦点を当て、その歴史的な役割を考察し、現在のカシューブ人の状況との関係性についての問題提起を試みた。

午後の部：　13:10－15:10

13:10~13:50 藤井和夫（関西学院大学名誉教授）「19 世紀から第 2 次大戦までのウッチの発展と他者との共生」

＜藤井和夫＞　市民の多様性という特色をもつ産業都市ウッチの発展は、独立国家の再興と社会の近代化を課題とした 19 世紀のポーランド史の中でユニークな位置を占めている。ロシア支配の下で、繊維工業の成立と発展を基盤としながら、民族・言語、階層・経歴を異にする人々がどのように急速に成長する都市社会を形成していったのかを見ていくことで、ポーランドにおける近代社会形成の一つの可能性を見出すことができる。

13:50~14:30 衣笠太朗（神戸大学講師）「19～20 世紀のシロンスクにおける地域性と多様性」

＜衣笠太朗＞　グルヌィシロンスクは、ポーランド、チェコ、ドイツなどに挟まれた境界地域として、言語的・民族的・宗派的な多様性を内包する地域であった。とりわけ 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけての当該地域は、プロイセン＝ドイツにおいて工業化、文化闘争、住民投票とそれをめぐる闘争を経験するというユニークな歴史的文脈の中に置かれ、それゆえに独自の地域性とアイデンティティを育んでいくこととなる。本報告では、ドイツ系住民のみならず、ポーランド系住民やシロンスクの地域主義にも目を配りながら、その錯綜する近代史の有する意義について考えた。

14:30~15:10 三和昭子（ポーランド、ハルクローヴァ村 Villa AKIKO オーナー）「ハルクローヴァ便り」（司会：加須屋明子・フォーラム・ポーランド副代表、京都市立芸術大学教授）（ハルクローヴァ在住の三和さんとオンラインで結んでお話を伺う。また三和さんの知り合いのハルクローヴァの方々へのインタビューをビデオレターの形で紹介する）

インタビュービデオ（YouTube）　https://www.youtube.com/watch?v=O2dtTlJG5I0

ミニコンサート　15:10~15:50　（総演奏時間 20～27 分程度）
（今回取り上げたポーランドの諸地域ほかに因んだ音楽のピアノ演奏）

登場する作曲家の歴史的背景

フェリクス・ノヴォヴィエイスキ（1877～1946 年）
　ヴァルミア、バルチェヴォ生まれ（いわゆる「ポーランド・ヴァルミア」地域）。仕立屋の家に生まれる。シフィエンタ・リプカ（ヴァルミア最大のカトリック教会、オルガンでも有名）の音楽学校で学ぶ。交響曲、ピアノ協奏曲、オルガン曲、オラトリオ≪クウォ・ヴァディス≫など多数の作品を作曲。
　≪カシューブ賛歌≫（1921 年）、≪ボロヴィアク（カシューブ地方の舞踊）≫、≪ヴァルミア地方の民謡集≫（1935 年）。≪ヴァルミア賛歌≫では、1920 年の住民投票の宣伝活動

イグナツィ・クシジャノフスキ（1826～1905 年）
　1826 年、オパトゥフ生まれ。1840 年、クラクフを訪れたリストから、パリ音楽院で学ぶように言われ、1843 年から 5 年間、パリ留学。1844 年~48 年には幾度かショパンの下で指導を受ける。ポーランドや周辺地域の舞曲も多く作曲している。

ヴォイチェフ・キラル（1932~2013 年）
　現代音楽家　≪クシェサニ≫―ポトハレの民族音楽をモチーフにしたドラマチックなオーケストラ作品。映画音楽も多数作曲。皆様ご存じの≪約束の土地≫は１９世紀、産業革命期のウッチを舞台にした大河ドラマ的作品。

ヴィトルト・ルトスワフスキのエピソード
　ルトスワフスキとパヌフニク、ナチスの監視下での、一斉摘発の恐怖の下での、「命懸けの」コンサート。喫茶店 SiM(Sztuka i Moda) ul.Królewska11－現在のヴィクトリア・ホテル内
　≪パガニーニの主題による変奏曲≫（41 頁）はこうした状況の中で生み出された

ジグムント・ノスコフスキ（1846～1909 年）

ワルシャワで生まれ、没する。ワルシャワ音楽院でモニューシュコらに師事。ベルリン留学、リストに評価される。ワルシャワ音楽院教授。カルウォヴィチ、シマノフスキらを育成。

≪ファンタジア・グラルスカ≫（1 885 年頃）は、ザコパネの２つの民謡をテーマにしている。一つは「石造りの地下室で」という有名な民謡。中間部の二つ目の民謡はバグパイプ用の曲だったが、こんにち完全に忘れ去られてしまったらしい。

演奏　木田左和子（ピアニスト、昭和女子大学講師）：ピアノ⑤⑦

草野由美子（ピアニスト）:ピアノ①④⑦

小早川朗子（ピアニスト、桜美林大学教授）:ピアノ②③⑥

趣旨説明　小早川朗子（ピアニスト、桜美林大学教授）、白木太一（大正大学教授）

① （カシューブ）ノヴォヴィエイスキ　「カシューブ賛歌」

② （ヴァルミア）ノヴォヴィエイスキ　「ヴァルミア地方の 25 のポーランド民謡（数曲抜粋）」

③ （カシューブ）ノヴォヴィエイスキ　「ボロヴィアク」

④ （ウッチ）キラル　約束の土地より「ワルツ」

⑤ （ルテニア）クシジャノフスキ　「ドゥムカ」

⑥ （シロンスク）ルトスワフスキ　「シレジアン・ダンス―子供のためのアルバム」

⑦ （ポドハレ）ノスコフスキ　「グラル幻想曲」（連弾）

15:50~16:00 閉会の辞　ウルシュラ・オスミツカ　ポーランド広報文化センター所長・参事官

Konferencja „Forum Polska" 2024

Różnorodność regionów w Polsce i współżycie z innymi kulturami

P R O G R A M

Data: 7 grudnia 2024 (sobota), 10:30 – 16:00

Miejsce: Sala im. Tadeusza Romera, Ambasada RP w Tokio

Organizator: Forum Polska

Współorganizatorzy: Ambasada Rzeczypospolitej Polskiej w Tokio, Instytut Polski w Tokio

10:00 Otwarcie recepcji

Moderator: Rie Hiraiwa (Kierowniczka Sekretariatu Forum Polska, Instytutu Polskiego w Tokio)

Otwarcie Konferencji 10:30 – 11:05

10:30 – 10: 35 Wystąpienie Przewodniczącego Forum Polska Masahiro Taguchi (prof. International Pacific University, prof. emer. Okayama University)

10:35 – 10:45 Wystąpienie powitalne Ambasadora Rzeczypospolitej Polskiej w Japonii Pawła Milewskiego

10:45 – 10:55 Wręczenie przez Ambasadora medalu Gloria Artis dla prof. Mitsuyoshi Numano (odbiera w zastępstwie małżonka prof. Numano – pani Kyoko Numano).

10:55 – 11:05 Wspólne zdjęcie

Sesja przedpołudniowa 11:05 – 12:30

11:10 – 11:50 Taichi Shiraki (Wiceprzewodniczący Forum Polska, prof. Taisho University)
Warmia a Polska za czasów Kopernika i Krasickiego

11:50 – 12:30 Shinsuke Hosoda (prof. emer. Ryukoku University)
Historia Kaszubów i ich inteligencja – Myśl i działalność Floriana Ceynowy (1817-1881)

12:30 – 13:10 Lunch

Sesja popołudniowa 13:10-15:10

13:10 – 13:50 Kazuo Fujii (prof. emer. Kwansei Gakuin University)
Rozwój Łodzi i relacje z innymi regionami w latach 1820 – 1939

13:50 – 14:30 Taro Kinugasa (wykł. Kobe University)
*Regionalizm i różnorodność na Śląsku w XIX-XX wiek*u

14:30 – 15:10 Akiko Miwa (właścicielka Villi AKIKO w Harklowej)
Wiadomość z Harklowej (rozmowa wideo, moderatorka: Akiko Kasuya – Wiceprzewodnicząca Forum Polska, prof. Kyoto City University of Arts)

Mini-recital fortepianowy: 15:10-15:50

Utwory regionalne związane z tematyką konferencji (ok. 20 – 27min.)

Występują:

Sawako Kida (pianistka, Showa Women's University) ⑤⑦

Yumiko Kusano (pianistka) ①④⑦

Tokiko Kobayakawa (pianistka, prof. J. F. Oberlin University) ②③⑥

Moderator: Tokiko Kobayakawa, Taichi Shiraki

① Kaszuby – Feliks Nowowiejski : Hymn Kaszubski;
② Warmia – Feliks Nowowiejski : Z „25 Polskich pieśni ludowych z Warmii op.21-8” (fragmenty);
③ Kaszuby – Feliks Nowowiejski : Borowiak;
④ Łódź – Wojciech Kilar : Walc z filmu „Ziemia obiecana”;
⑤ Ruś – Ignacy Krzyżanowski : Dumka;
⑥ Śląsk – Witold Lutosławski : Silesian dance “Flirting”, “The grove”, “The gander”, “The schoolmaster” (z “Album for the young”);
⑦ Podhale – Zygmunt Noskowski : Fantazja góralska (na 4 ręce)

15:50 – 16:00 Wystąpienie końcowe Dyrektor Instytutu Polskiego w Tokio
Urszuli Osmyckiej

登壇者紹介

パヴェウ・ミレフスキ（Paweł Milewski）　**駐日ポーランド共和国特命全権大使**

1975年生まれ。1999年アダム・ミツキェヴィチ大学にて中国学修士号を取得後、1996年より首都師範大学（中国）、続いて1997年より廈門大学（中国）に留学。2003年ワルシャワ経済大学国際経済研究室研究課程（PG Dip）修了。1999年ポーランド共和国外務省入省。2000年よりアタッシェ、三等書記官としてアジア･太平洋局にてアジア・太平洋諸国問題に従事。2003年から2009年にかけ駐中華人民共和国ポーランド共和国大使館にて二等書記官、一等書記官、参事官として勤務。2009年よりポーランド共和国外務省アジア･太平洋局 東アジア・太平洋課長、2011年よりアジア･太平洋局副局長を務める。2013年に駐オーストラリア･ポーランド共和国大使に就任する。この間、駐パプアニューギニア･ポーランド共和国大使を兼任。2017年ポーランド共和国外務省アジア･太平洋局局長に就任。2019年10月に駐日ポーランド共和国大使として来日。

ウルシュラ・オスミツカ（Urszula Osmycka）　**ポーランド広報文化センター所長・参事官**

ワルシャワ大学日本学科卒業、専門は近現代日本史。1999年、文部省在外研修員として鹿児島大学で1年間日本語・日本文化研修、2002～2006年、九州大学法学部で学び、修士号（政治学）を取得。帰国後、在ワルシャワエジプト大使館、在ワルシャワ日本国大使館などに勤務。2009年、外務省のアジア・太平洋局に勤務。2011年、日ポ外交官交流プログラムに参加し、外務省欧州課でのインターンシップを修了。2012～2018年、駐日ポーランド大使館政治経済部で政治・報道問題、広報文化外交のプロジェクトを担当。2018年8月より、外務省大臣官房参事官。2021年9月、東京のポーランド広報文化センター長に就任。英語、日本語、フランス語に堪能。

平岩理恵（Rie Hiraiwa）　**フォーラム・ポーランド事務局長、ポーランド広報文化センター**

ポーランド語通訳・翻訳家。東京外国語大学大学院修士前期課程修了。ワルシャワ大学音楽学研究所に政府給費留学（2001～03年）。研究テーマはポーランドの舞曲およびスタニスワフ・モニューシュコ。訳書 に『ショパン家のワルシャワ』（国立フリデリク・ショパン研究所）、絵本《ぼくショパン》シリーズ（同）、Curator's choice『フリデリク・ショパン博物館』（Scala Arts & Heritage）ほか、共訳書に『ショパン全書簡』（「ポーランド時代」および「パリ時代(上・下)」。岩波書店）、編著に ポーランド声楽曲選集第４巻『モニューシュコの家庭愛唱歌集〈選〉』がある。フォーラム・ポーランド事務局長。2024年よりポーランド広報文化センター文化担当エキスパート。

白木太一（Taichi Shiraki）　**フォーラム・ポーランド副代表、大正大学教授**

1959年東京生まれ。早稲田大学第一文学部西洋史専修卒業。早稲田大学大学院文学研究博士課程単位取得退学。1986~89年、ワルシャワ大学歴史研究所留学。文学博士。現在、大正大学文学部歴史学科教授。専門は近世ポーランド史。主要業績：『近世ポーランド「共和国」の再建―四年議会と五月三日憲法への道』（彩流社、2005年）、「近世ポーランドにおけるヘトマン（軍司令官）職－その社会的役割の変遷を中心に―」井内敏夫編『ヨーロッパ史におけるエリート』（太陽出版、2007年）、「聖職者イグナツィ・クラシツキと18世紀後半のヴァルミア司教区」『鴨台史学』第9号、2009年、『［新版］一七九一年五月三日憲法』（ポーランド史叢書２）（群像社、2016年）、「18世紀後半から19世紀初頭のワルシャワの作曲家と音楽会活動―近代ポーランド市民音楽形成に関する基礎的考察―」『国民音楽の比較研究に向けて―音楽から地域を読み解く試み―』（京都大学地域統合センター、2015年）、『現代ポーランド音楽の100年―シマノフスキからペンデレツキまで―』（ダヌータ・グヴィズダラ

ンカ著、重川真紀氏との共訳）、音楽之友社、2023年、『ポーランド・バルト史（山川セレクション）』、（共著、山川出版社、2024年）、『ポーランドの歴史を知るための５６章（第２版）』（共編著、明石書店、2024年）、『国民教育委員会―ヨーロッパ最初の文部省』（ポーランド史叢書10）（群像社、2024年）。

細田信輔（Shinsuke Hosoda）　**龍谷大学名誉教授**

1955年、東京生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。同大学院経済学研究科単位取得退学。1987～1993年、ヴロツワフ大学留学。同大学歴史研究所にて博士学位取得。1999～2000年、グダニスク大学客員教授。主著：「1921年の中部ドイツ武装蜂起（上）（下）」、『三田学会雑誌』第79巻（1986）；'Regulamin karny (1861) i regulamin pracy (1869) w kopalniach Księstwa Pszczyńskiego', *Śląski Kwartalnik Historyczny Sobótka*, R.47 (1992)；*Położenie socjalne robotników w górnictwie węglowym w dobrach książąt pszczyńskich na Górnym Śląsku w latach 1847-1870*, Wrocław 1997；「カシューブ人の歴史と地域主義―ドイツとポーランドのはざまで―（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）」、『龍谷大学経済学論集』第41巻、第42巻、第46巻（2001-2006）；'Historia i aktualna sytuacja mniejszości etnicznych w Polsce i Japonii na przykładzie Kaszubów, Ajnów i Okinawańczyków', *Acta Cassubiana*, T.15 (2013)；'Historia Kaszubów w oczach badacza japońskiego. Kaszubi a mniejszości etniczne oraz narodowe w Japonii', M. Maciejewski i in (red.), *Tendencje rozwojowe myśli politycznej i prawnej*, Wrocław 2014；「フローリアン・ツェイノヴァの思想と行動（1817-1881）－カシューブ人の歴史と知識人－」、『龍谷大学経済学論集』第63巻（2024）。

藤井和夫（Kazuo Fujii）　**関西学院大学名誉教授**

1950 年、兵庫県姫路市生まれ。関西学院大学経済学部卒業、同大学院博士後期課程単位取得退学。1978～80 年（ウッジ大学）、1994 年（ワルシャワ大学）、2016 年（クラクフ経済大学）留学。関西学院大学経済学部教授を経て、現在、関西学院大学名誉教授。専門はポーランド経済史・経営史。経済学博士。主な著書：『ポーランド近代経済史―ポーランド王国における繊維工業の発展(1815-1914 年)―』（日本評論社、1989 年）、『現代世界とヨーロッパ―見直される政治・経済・文化―』（編著、中央経済社、2019 年）、『19 世紀ポーランド社会経済史－ウッジにおける企業家と近代社会の形成－』（関西学院大学出版会、2019 年）。1992 年より日本ポーランド協会関西センター代表、現在に至る。

衣笠太朗（Taro Kinugasa）　**神戸大学講師**

1988 年、鳥取県八頭郡生まれ。静岡大学人文社会学部卒業、神戸大学大学院人文学研究科博士課程前期課程修了、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。2015～2016 年にハレ大学（ドイツ）、2017～2018 年にヴロツワフ大学へ留学。秀明大学学校教師学部助教を経て、現在は神戸大学大学院国際文化学研究科講師。専門はシロンスクの歴史、ドイツと中東欧の近現代史。主要業績：『旧ドイツ領全史――「国民史」において分断されてきた「境界地域」を読み解く』（パブリプ、2020 年）、『ドイツ帝国の解体と「未完」の中東欧：第一次世界大戦後のオーバーシュレージエン／グルヌィシロンスク』（人文書院、2023 年）、「複合国家の近現代――シュレージエン／シロンスク／スレスコの歴史的経験から」岩井淳／竹澤祐丈編『ヨーロッパ複合国家論の可能性：歴史学と思想史の対話』（ミネルヴァ書房、2021 年、79-92 頁）。

三和昭子（Akiko Miwa）　**Villa AKIKO オーナー**

熊本県生まれ。東洋英和女学院短期大学保育科出身。1969-70年、NHK聴覚障害児教育番組担当。働き続けたい母親支援の為の共同保育所を開設。障がい児も積極的に引き受ける。1984年、3人の子供達全員が公害認定病で喘息となり、長野県に移住。その後全員完治。1989年、ポーランドに留学目的（工芸・ステンドグラス）で渡航。ポトハレ地方の魅力に触れ、1990年にペンションAKIKOの建築開始、1992年に営業開始。以来32年間、多くの旅行者、文化人、地域住民、そして日本人を受け入れてきた。 現在、娘ののぶがペンション経営を引き継ぎ、息子はワルシャワで歯科技工士として活躍している。1996年、体育・観光庁長官表彰、2011年、スポーツ・観光省褒賞受賞。2018年、旭日単光章受章。その他、受賞、表彰多数。
http://www.akiko.pl/?lang=ja

木田左和子（Sawako Kida）**ピアニスト、昭和女子大学講師**

桐朋学園大学卒業後、ポーランド国立ショパン音楽アカデミー（現ショパン音楽大学）研究課程に留学。ポーランドラジオ、NHK-FMの放送録音、「シマノフスキ　3Mとマズルカ」リサイタルシリーズ、日本シマノフスキ協会例会、ヴィラノフ弦楽四重奏団、チェコ・フィルハーモニー・ゾリステン、ポーランドラジオオーケストラとの共演の他、ポーランド・カリシュ・フィルハーモニー、ヴァウブジフ・フィルハーモニー、東京ニューシティ管弦楽団、山形交響楽団の定期演奏会にて共演。2005年愛知万博ポーランド館、2010年日本ショパン協会主催“ショパン・フェスティバル2010 in 表参道”にてリサイタル。1983年第1回シマノフスキコンクール（ポーランド）にてディプロマ、1993年第2回ウィーン国際コンクール（オーストリア）にてピアノ部門第2位及びジャン・フレデリック・ペルヌー賞受賞。『ショパン室内楽名作集』、『カロル・シマノフスキ作品集～「神話」への誘い』（オクタヴィア・レコード　2023年）をリリース。上野久子、須田眞美子、バルバラ・ムシンスカの各氏に師事。昭和女子大学非常勤講師、（公財）目黒区芸術文化振興財団評議員、日本ショパン協会正会員、日本シマノフスキ協会理事。

草野由美子（Yumiko Kusano）　**ピアニスト**

国立音楽大学附属中学校、附属高等学校音楽科を経て、国立音楽大学ピアノ専攻卒業。ポーランド政府給費留学生として1989年ポーランド国立ショパン音楽アカデミー（現ショパン音楽大学）に留学、研究課程を修了。特にシマノフスキの音楽に魅せられて、帰国後のライフワークとなる。2002年から2004年まで2年間、東京外国語大学外国語学部ポーランド学科の研究生として在籍、関口時正教授のご指導を受けながら、シマノフスキの研究に取り組み、「シマノフスキと《ハルナシェ》」という題で研究論文を執筆。それ以降ピアノ曲だけでなく、シマノフスキの歌曲も度々取り上げてリサイタルを行う。最近はチェリストと一緒に、ショパンの室内楽曲を始め、ベートーヴェンチェロ曲（全9曲）コンサート等、室内楽で活動の場を広げている。今野信子、宅孝二、細川哲郎、ショパン音楽アカデミー元学長カジミェシュ・ギェルジョド、ラミロ・サンジネス、マリア・ストイェク各氏に師事。
https://forumpoland.org/wp/wp-content/uploads/2023/02/Kusano.pdf

小早川朗子（Tokiko Kobayakawa）　**ピアニスト、桜美林大学教授**

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等高校・同大学を経て、同大学大学院音楽研究科入学。ワルシャワ・ショパンアカデミーの研究生として2年間のポーランド留学の後、復学。修士課程ピアノ専攻首席修了、NTTドコモ賞受賞。その後同大学院博士後期課程に在籍し、博士号（音楽）取得。現在桜美林大学芸術文化学群音楽専修教授。ポーランド・アントニンにて、留学生のためのショパンピアノトーナメントでグランプリ、特別賞受賞。パリ国際マギンコンクールにて一位、およびジャーナリスト賞受賞。これまでに安田宏子、金子 園、足立和子、高良芳枝、角野 裕、クラウス・シルデ、多 美智子、ブロニスワヴァ・カヴァラの各氏に師事。大阪・東京、パリでのリサイタルの他に、ワルシャワ・ワジェンキ公園やショパンの生家でのショパンコンサートなどポーランド各地で演奏。ピアノ公開レッスンや公開講座などでポーランド語通訳を務める。アイエムシー音楽出版「はじめてのポーランド・ピアノ曲集Vol.1,2」付属CD演奏。ハンナ社出版の「ポーランド声楽曲選集 第1-7巻」の編者。
https://gproweb1.obirin.ac.jp/obuhp/KgApp?kyoinId=ogbgggyk

加須屋明子（Akiko Kasuya）　**フォーラム・ポーランド副代表**

1963年兵庫県たつの市生まれ。京都大学大学院博士後期課程単取得満期退学（美学美術史学専攻）。ヤギェロン大学（クラクフ、ポーランド）哲学研究所美学研究室留学。国立国際美術館主任学芸員を経て、現在、京都市立芸術大学美術学部・大学院美術研究科教授。博士（文学）。専門は近・現代美術、美学。主な展覧会企画は「芸術と環境－エコロジーの視点から」1998年、「死の劇場―カントルへのオマージュ」2015年、「セレブレーション：日本ポーランド現代美術展」2019年など。2011年-2020年龍野アートプロジェクト芸術監督。2022年よりたつのアート実行委員会代表。主な著書『ポーランドの前衛美術――生き延びるための「応用ファンタジー」』（創元社、2014年）、『現代美術の場としてのポーランド－カントルからの継承と変容』（創元社、2021年）など。
https://www.kcua.ac.jp/professors/kasuya-akiko/

田口雅弘（Masahiro Taguchi）　**フォーラム・ポーランド代表、環太平洋大学教授**

1956年生まれ。環太平洋大学経済経営学部教授、岡山大学名誉教授。専門は、現代ポーランド経済史、ポーランド経済政策論。1984年、ワルシャワ中央計画統計大学（SGPiS＝現在のワルシャワ経済大学）経済学修士学位取得卒業。1988年、京都大学大学院経済学研究科博士課程後期単位取得退学（京都大学博士）。その後、岡山大学経済学部教授、ハーバード大学ヨーロッパ研究センター(CES)客員研究員、ポーランド科学アカデミー(PAN)客員教授、ポーランド科学アカデミー(PAN)客員教授、ワルシャワ経済大学正教授、岡山大学学術研究院社会文化科学学域教授等を歴任。主要著書：『ポーランド体制転換論　システム崩壊と生成の政治経済学』（御茶の水書房、2005年）、『現代ポーランド経済発展論　成長と危機の政治経済学』（岡山大学経済学部、2013年）、*On the Identity of Poles.*（ed., Fukuro Shuppan, 2020）,『第三共和国の誕生　ポーランドの体制転換一九八九年』（群像社、2020年）。
https://mstaguchi.wixsite.com/index